

令和7年度第2回 亀山市地方創生会議 議事概要

開催日時	令和8年2月17日（火） 13:30~15:10
開催場所	亀山市役所本庁舎 3階 理事者控室
議事項目	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事 (1) 第3期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について（資料1） (2) 亀山市人口ビジョン（案）について（資料2）</p> <p>3. その他</p>
議 事	<p>【事務局より】</p> <p style="padding-left: 2em;">委員 10名中8名が出席で1/2以上の出席となっており、会議は成立している。</p> <p>1. 開会</p> <p>【会長よりあいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略で最も懸念される点は、人口減少が今後どのように推移するのか、どのようにくい止めていくかである。三重県の担当者によれば、県全体としても人口減少は厳しい状況にあると見通している。 ・今後、人口が増加に転じる見込みはなく、どの自治体も減少の速度をいかに緩和するかが課題となっている。特に出生率の改善は難しく、それ以上に社会減、すなわち人口流出をどう抑えるかが重要であり、県としてもその点を主要な課題としている。亀山市としても同様の問題意識を持って取り組む必要がある。 ・亀山市では子育て支援が一定の成果を上げ、出生率が大きく下がらなかった時期があった。一方で、関東の一部自治体では軒並み出生率が 1.00 を下回るような状況を迎えている。今後の出生率の動向は不透明である。 ・総合戦略（案）が取りまとめられたが、これをどのように生かしていくかが次の重要な段階となる。こうした観点も含めて、委員の皆様から幅広いご意見をいただきたい。 <p>2. 議事</p> <p>(1) 第3期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について（資料1）</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議は、傍聴を認めることとなっている。よろしいか。（異議なし） <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、傍聴希望者はいない。 <p>【事務局より資料1説明】</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1の16頁までの部分は前回もお示しいただいたところ。17頁以降に、重要行政評価指標（KPI）も入った形で具体的な施策を案として整理いただいた。 ・今後、庁内及び議会での説明があって、その後パブリックコメントを経て計画としてでき上がることになる。 ・第2期市総合戦略の検証にあたって、以下の3点について皆さんの意見をお聞きしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ：「現在の仕事に満足している市民の割合」（2頁）…現状値 48.2%（R2）が実績値 39.8%（R6）に下がっているのは何故か。 ：「合計特殊出生率」（4頁）…現状値 1.41（R1）が実績値 1.26（R5）に下がっているのは何故か。

：「亀山市を住みやすいと感じる市民の割合」（6頁）…現状値 74.6%（R2）が実績値 65.5%（R6）となっており、9.1 ポイントも下がっているのは何故か。

- ・この点についてうかがいたい。

（委員）

- ・おそらく、亀山市では、若い人が結婚して住むところを探すとすると、まずは都会に住みたいと思う。また、市内に賃貸の3LDK マンションがないので、鈴鹿市や市外に住む。そこで子どもを産んでいる。子どもを産んでから、持ち家を持つときに土地が安いので亀山市に戻ってくる。それが亀山市の現状だと思う。
- ・今亀山市に住んでいる人は、子どもを2人目までは産むけれども、3人以上産むことはあまりない。これは致し方のないところだと思う。人の流入がないともっと人口は減っていく。

（会長）

- ・亀山市として、3人目を産んだ人へのインセンティブは何かあるのか。

（委員）

- ・保育園は3人目が無料になる。

（会長）

- ・他自治体では、3人目、4人目にはお祝い金のようなものを出しているところがあるが、亀山市はどうか。

（事務局）

- ・出生祝い金は以前にはあったが、現在は無い。

（委員）

- ・私の周りでも、家を建てるために亀山市に戻ってくるとい人が多い。
- ・また、亀山市に戻ってくるといよりも、津市、鈴鹿市、伊賀市、名張市の中間で、お互いの仕事に通勤するためにはちょうど良いということで、亀山市に家を建てるという人もいます。

（委員）

- ・関周辺は、高速道路が便利である。

（委員）

- ・車を持っていることが前提にはなるが、交通の便はすごく便利なところであると思う。

（会長）

- ・出生率に強くこだわらなくとも、若い人が亀山市に住んで子育てをしているという実態があれば良いということか。必ずしも、亀山市で子どもを産まなくてはならないというわけではない。
- ・若い人が家を建てることのできる環境を整備することが大事だということになる。

（委員）

- ・鈴鹿市等では家を買えないため、土地が安い亀山市に来ている。亀山市が教育や保育等の面で支援することが大事である。

（会長）

- ・家が安く買えるということはプラス要素であり、あとはそれを支えていく仕組みを市で作っていく必要がある。
- ・東京都では家が高くて買えないため、埼玉県に来ている。そうした選択肢があることは若い人にとって悪いことではない。
- ・ただ、亀山市に住みたくて来ているのではないということもいえる。

（委員）

- ・都会と比べれば不便であり、ショッピングセンター等もないが、車があれば何とか生活できる。

(会長)

- ・資料1の6頁の「亀山市を住みやすいと感じる市民の割合」が下がっているけれども、亀山市に積極的に住みたいと考えて来ているわけではなくて、安いから来ているというところが、この割合がなかなか上がらない要因なのかもしれない。

(委員)

- ・若い人たちは便利なものを求めているので、津市、鈴鹿市、四日市市に行きたがる。結婚して子どもが生まれたので、どこに住もうかとなり、亀山市が選ばれる理由の一つにはなっていると思う。
- ・コロナ禍を経験して、子どもを産もうという人が少なくなっている。また、全国的な傾向だと思うが、あえて子どもをつくらない夫婦も増えているように思う。
- ・あとは経済的理由である。他市で住んでから亀山市に戻ってくる。1人目の子どもを連れてきて2人目を亀山市で産むことはあっても、3人目を産むことはあまりない。すごく経済的に豊かな人が来ているわけではない。そんな印象である。

(委員)

- ・第1子の出産年齢が高齢化してきているので、2人目、3人目は厳しい。
- ・私が住んでいるところは、空き家があってもすぐに人が入ってきている。場所にもよるのだと思う。関地区はどちらかというところ「まちなみ」が素敵だといって県外から人が入っている。選んでやってくるという話を聞く。
- ・電車に乗るにも名古屋に出るにも便利である。交通の便が良い。駅の周辺は名古屋方面にも大阪方面にも行きやすい。

(会長)

- ・皆さんがおっしゃったような場所では、積極的に亀山市を選んで来ている人もかなりいるということか。
- ・「亀山市を住みやすいと感じる市民の割合」は9ポイントとかなり落ち込んでいる。その理由はどう考えるべきか。

(委員)

- ・出生率が低い要因の一つとして、亀山市には産科がない。それは課題である。
- ・ショッピングセンターがないという話が出たが、若い人が住みたくするようなお店がない。お店を増やさないと魅力がない。
- ・職場で、亀山市民と近隣市町在住者は半々である。JRで津亀山間はまだICカードが使えない。そうした小さなことが積み重なって、不便だと思われるのではないか。

(会長)

- ・市の分析はどうか。

(事務局)

- ・「亀山市を住みやすいと感じる市民の割合」については、令和5年のアンケートでは72%であった。令和6年の直近のアンケートでは全体的に数値が落ちている傾向がみられる。
- ・「便利さ」が影響している可能性があるが、本質的なところの理由は難しい。
- ・ただし、生活交通に関する満足度が最も低くなっている状況が続いている。

(委員)

- ・亀山市には、ショッピングセンターのような人が来たいと思えるような施設が少ない。鈴鹿市には、ベルシティがあり鈴鹿サーキットがある。そこと比べると亀山市はパンチが弱い。
- ・人が住みたいということと直結すると思うので、長い目線で考えるなら、人が来なくなる施設も考える必要がある。

(会長)

- ・「現在の仕事に満足している割合」が39.8%にとどまっている。この点はどうか。

(委員)

- ・働けることの満足度なのか、働く仕事の満足度なのか、どちらで回答しているのかが分からない。
- ・今は工場でも空調が効いていて、冬場でも半袖で働ける。職場までの交通利便性で回答している可能性もある。
- ・待遇面でも、大きな賃金格差があるようには思えない。

(会長)

- ・ここについては、他の業種との違い等を細かくみていかないと分からない。
- ・自分が希望する仕事がないという側面はあるかもしれない。

(委員)

- ・若い人が就職で都市部に出ている傾向がある。それは働きたい企業が少ないという気がする。

(委員)

- ・女性が子育てから復職しようとするとき、製造業だと子どもが病気になった際などに、すぐに動けない。家に近くて自由が効くところで働きたいと思う。コストコが来るとなった時、お母さんたちの中では期待している人は多かった。

(会長)

- ・三重県は就労においてジェンダーギャップが激しい県である。製造業の比率が高いところは、男女の賃金格差が開きやすい。北勢地域は特にそうであるため、なかなか女性が定着しないという傾向がみられる。
- ・女性が働きやすい環境を、製造業が中心になって整備する必要がある。
- ・製造業に対する女性からのイメージが悪いようであり、何故なんだろうと思う。

(委員)

- ・女性でも、軽作業であればということで、製造業で働く人はいる。
- ・亀山市の製造業は、重量物を扱うところが多い。自動化、ロボット化は進んでいるが、その前の工程は手作業になる。その作業が重量物を扱うことになる。亀山市に限った話ではないが、そういったところが払拭できていない。

(会長)

- ・実際には、サービス業は賃金が低いが、イメージとしては製造業が低いイメージがある。イメージの問題もある。

(委員)

- ・私の職場でも、軽作業ができるところには女性を配置している。

(会長)

- ・「現在の仕事に満足している割合」については、男女別の分析もみてみたい。

(事務局)

- ・色々なご意見をいただいた。クロス集計を行って分析してみたいと思う。

(会長)

- ・総合戦略（案）については多くの意見をいただいた。第2期市総合戦略の検証の部分で本日もご意見をいただいたので、もう少し精度の高い分析をお願いしたい。

(2) 亀山市人口ビジョン（案）について（資料2）

【事務局より資料2説明】

(会長)

・ 亀山市人口ビジョンをみると、前提として亀山市の人口は減る。平成 29 年の亀山市人口ビジョンでは約 5 万人を維持する形にしていたが、今回の独自推計によると 2060 年には 41,000~42,000 人まで下がる。

・ 合計特殊出生率などの現在の動向をみていると、2060 年のこの数値も厳しいそうであるが、そのあたりはどうか。

(事務局)

・ 合計特殊出生率の直近は 1.26 であり、それをみると厳しい状況であるが、直近までは 1.5 程度という実績があったので、推計上はその実績に 0.1 を加えている。

・ 純移動率についても一定高めに設定してはいるが、以前よりは現実に近い推計になっている。

(会長)

・ 今回はある程度現実を踏まえた推計になっている。ただ 50,000 人の人口が 42,000 人になるので、減り幅は他の自治体と比べるとそこまで危機的な状況ではない。

・ 場所によっては人口が半減する自治体もある。亀山市でいうと、加太地区と坂下地区は 40%以上の減少となり、かなり厳しい状況になる。一方、地域によっては増えているところもある。

・ 人口減少をくい止めるためには、若い人や市外の人流入を増やす必要がある。亀山市が選ばれるまちになるためには何が必要なのか。この点についてどうか。

・ 安価な住宅に住める、この点について私はプラス要因だと思っている。亀山市も住む場所としてのクオリティを上げれば、安価で広い家に住めるといった PR の仕方もあり得るのかなと思う。

・ 住宅政策が重要になってくるように思う。亀山市にそうした場所があるのかどうか。

(事務局)

・ 大規模な住宅団地は難しいが、10 戸前後の住宅地の開発は進んでいる。年間 200 戸前後が建築されている。

(委員)

・ 旧市街ではなく、井田川地区や川崎地区といった人口が密集したところ、お店もたくさんあるところに、市内の若者が家を建てるということも結構多い。

(会長)

・ 世帯分離によって亀山市内で移動するケースになる。市外に出て行くよりはよいが、亀山市出身の人は亀山市に家を建ててくれるのか。

(委員)

・ 亀山市には津波はこない。

(委員)

・ 人口の増減は、市総合戦略の方であるように、市の満足度をどう上げていくかが根っこになってくると思う。

・ 人口ビジョンにはこの地域は増える、この地域は減るとある。これは直近の 2020 年の実績からの推計であるが、今後どうなるかは実のところわからない。あくまで目安である。

(会長)

・ 地区別にも状況は大きく違う。地区により課題も異なるので、そこにきめ細かい対応をしていかないといけない。

・ 人口の増加が見込まれている城北地区、本町地区、川崎地区、井田川南地区、これらはインフラが整っているということか。

(事務局)

・ 井田川南地区と本町地区といった旧市街はインフラが整っている。川崎地区は鈴鹿市に

近く便利ということもあって人口が増えている。

(会長)

- ・ 地区別に、人口減少が見込まれる地区をどうしていくかは一つの課題になる。
- ・ 長期的にはなかなか難しいかも知れないが、短期的には、例えば住宅施策によって若い人を住ませよう誘導する、世帯分離で便利なところに家を建ててもらおうようにするなど、そうした支援の可能性はどうか。

(事務局)

- ・ 市外からの移住者に対する支援はあるが、世帯分離に対する支援はない。

(会長)

- ・ 10歳代が外に出ていくことは避けられないので、問題はいったん外に出て行った人が戻ってこられるのか、出て行ったとしても近場で仕事をみつけて亀山市に住んでもらうことができるのかということになる。
- ・ 将来リニアが通ると大きく変わってくる。東京まで40分、50分となって通勤圏になれば、住まい方などは大きく変わってくる。

(委員)

- ・ 大阪からは20分である。

(会長)

- ・ リニアの話が出てくると夢の話ができるが、それまでの間としては、インフラの整っていないところをどうしていくかが課題であり、やはり交通手段になってくるのではないか。
- ・ 乗務員の問題などもあってバスが減ってきている。交通弱者対策は課題である。

(事務局)

- ・ 公共交通の需要が伸びてこないところについては、新たな輸送サービスの再構築に向けて現在取り組んでいるところである。公共交通の満足度が最も低いという状況を改善していかななくてはならない。

(会長)

- ・ 生活満足度が上がらない一番の理由は移動の問題だと思っていて、地方ではマイカーを持たないといけない。車を持つとコストはかかる。地方の中には、車を安く取得できるようにする支援もある。移動のためのインフラを整える一つの考えかも知れない。
- ・ 市総合戦略、人口ビジョンの施行はいつからになるのか。

(事務局)

- ・ 年度末の策定を予定しており、来年度からスタートとなる。

3. その他

【事務局より説明】

- ・ 事務局の方で議事概要を作成した後、委員の皆様にご確認いただき、その後ホームページで公開する予定である。なお、氏名は非公開とする。
- ・ 第3期市総合戦略については、2月20日（金）に市議会に説明、21日（土）から1ヶ月間のパブリックコメントを実施して、その後、3月末の策定となる。

(会長)

- ・ 以上で、本日の協議事項を終了とする。

(事務局)

- ・ 本日もいただいた意見は、課題の部分などに反映していければと考えている。
- ・ 以上で、令和7年度第2回亀山市地方創生会議を閉会とする。

以上